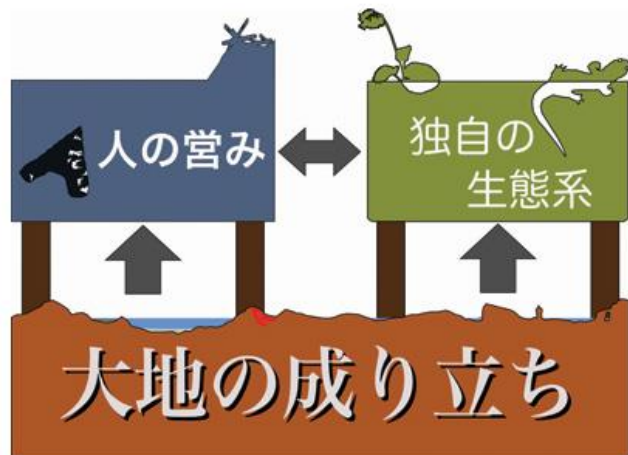


が、連続性を持って存在しているのである。

隠岐は島根半島から分離して離島となったのではなく、海面の上下によって島根半島と陸続きになったり離島になったりを繰り返してきた。

隠岐と島根半島間の水深が約 70m なので、2 万年前の氷河期には現在より海面が 130m ほど下がるので陸続きとなっていた。その後の地球の温暖化による海面の上昇によって約 1 万年前に現在のような離島となったのである。



② 「CAS システム活用の取り組み」について

海士町では、白いか等の新鮮な魚介類が採れるが、離島であるが故に、市場に着くまでに時間と費用がかかり、商品価値を落としてしまうというハンディがあった。

この離島のハンディを克服する為、平成 17 年度より CAS (Cells Alive System) と呼ばれる、凍結技術を導入した農林水産物加工施設の整備を行った。これにより、付加価値を付けて、旬の味と鮮度を保ったまま東京などの大消費地への出荷を可能とし、加えて食の安心安全を提供することで離島のハンディを克服し、第 1 産業の再生と後継者育成に繋げることを目標としている。



商品アイテムは特産品の白いか、いわがき春香などの水産加工品の主力商品の他、「いわがきご飯・さざえ飯」、「フライ類」などの農産加工商品にも力を入れている。

販売先は首都圏を中心とする業務向け商品による外食産業への販路を開拓しながら、個人向け加工商品により消費者個人をターゲットに販売先への営業を展開している。

「CAS 凍結センター」と命名された本施設は、平成 17 年 3 月に完成し、同年 2 月に設立された第三セクター「(株)ふるさと海士」が運営。

正社員・パート・アルバイトを合わせて 25 名 (平成 20 年 10 月現在) の雇用を生み、海士町新産業創出の一翼を担っている。

※CAS (Cells Alive System) とは：磁場エネルギーで細胞を振動させることで、細胞組織

を壊すことなく凍結させることができる画期的なシステム。

解凍しても通常の急速冷凍物のようなドリップなどは一切流出せず、長期間にわたって鮮度を保持することができる。つまり、とれたての味をそのまま封じ込め、解凍後もとれたての味をそのまま食することが可能になる。

浜の漁師の食卓が都市の家庭でも再現できるということである。

■ (株) ふるさと海士 CAS 凍結センターの概要

視察箇所名	(株) ふるさと海士 CAS 凍結センター																		
施設等の概要	<p>●整備目的 海士町で獲れる農・水産物を加工し、特殊冷凍 (CAS) して島外へ発信し、ブランド化の確立と外貨獲得を目指す。</p> <p>●整備等内容 構造物 鉄筋コンクリート平屋建 950 m² 主要加工機器 CAS 凍結器 (-55 度) 2 基 冷凍保管庫 (-35 度) 3 基、厨房機器等</p> <p>●販売実績 CAS 凍結商品</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>(H17)</td><td>26,842 千円</td></tr> <tr><td>(H18)</td><td>41,705 千円</td></tr> <tr><td>(H19)</td><td>59,000 千円</td></tr> <tr><td>(H20)</td><td>75,649 千円</td></tr> <tr><td>(H21)</td><td>76,956 千円</td></tr> <tr><td>(H22)</td><td>89,395 千円</td></tr> <tr><td>(H23)</td><td>108,457 千円</td></tr> </table> <p>●販売計画先 外食チェーン店、百貨店、通信販売、スーパーマーケット</p>	(H17)	26,842 千円	(H18)	41,705 千円	(H19)	59,000 千円	(H20)	75,649 千円	(H21)	76,956 千円	(H22)	89,395 千円	(H23)	108,457 千円				
(H17)	26,842 千円																		
(H18)	41,705 千円																		
(H19)	59,000 千円																		
(H20)	75,649 千円																		
(H21)	76,956 千円																		
(H22)	89,395 千円																		
(H23)	108,457 千円																		
補助金等の状況	<table style="width: 100%;"> <tr> <td>実施事業名</td> <td>新山村振興等農林漁業特別対策事業 (国庫補助：平成 16 年度)</td> </tr> <tr> <td>事業主体名</td> <td>海士町</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>414,551 千円 (補助対象事業費)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>216,242 千円 (本体工事)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>188,050 千円 (冷凍設備工事費)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5,040 千円 (設計管理費)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5,219 千円 (工事雑費)</td> </tr> <tr> <td>国庫補助金</td> <td>207,275 千円 (補助率 5/10)</td> </tr> <tr> <td>町費</td> <td>207,276 千円</td> </tr> </table>	実施事業名	新山村振興等農林漁業特別対策事業 (国庫補助：平成 16 年度)	事業主体名	海士町	事業費	414,551 千円 (補助対象事業費)		216,242 千円 (本体工事)		188,050 千円 (冷凍設備工事費)		5,040 千円 (設計管理費)		5,219 千円 (工事雑費)	国庫補助金	207,275 千円 (補助率 5/10)	町費	207,276 千円
実施事業名	新山村振興等農林漁業特別対策事業 (国庫補助：平成 16 年度)																		
事業主体名	海士町																		
事業費	414,551 千円 (補助対象事業費)																		
	216,242 千円 (本体工事)																		
	188,050 千円 (冷凍設備工事費)																		
	5,040 千円 (設計管理費)																		
	5,219 千円 (工事雑費)																		
国庫補助金	207,275 千円 (補助率 5/10)																		
町費	207,276 千円																		

3. 視察の概要 視察した都市及び事業の概要は以下に記載の通りである。

(1) 隠岐の島町

- ① 人口 15,323 人 (平成 24 年 4 月 1 日現在)
- ② 世帯数 7,192 世帯
- ③ 区域面積 242.95 km²
- ④ 産業別就業者比率 (平成 22 年 10 月国勢調査時)
 - 第 1 次産業 967 人

第2次産業 1, 226人

第3次産業 4, 994人

(2) 海士町

① 人口 2, 374人 (平成22年10月国勢調査時)

② 世帯数 1, 052世帯 (同上)

③ 区域面積 33.52km²

④ 産業別就業者比率 (同上)

第1次産業 190人

第2次産業 172人

第3次産業 729人

① 隠岐ジオパークについて

基本情報

地域名 隠岐ジオパーク

団体名 隠岐ジオパーク推進協議会

代表者名 会長 隠岐の島町長 松田和久

構成自治体名 隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村 (3町1村)

推進組織体制

ジオパーク活動団体 隠岐ジオパーク推進協議会

(構成団体)

隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村、島根県隠岐支庁、隠岐の島町教育委員会、西ノ島町教育委員会、海士町教育委員会、知夫村教育委員会、島根県隠岐教育事務所、島根県議会議員、各町村議会、隠岐の島町商工会、西ノ島町商工会、隠岐國商工会、J A隠岐、島根県建設業協会隠岐支部、各町村観光協会、バス会社、タクシー会社、隠岐汽船、市民団体など37団体で構成

(アドバイザー)

島根大学総合理工学部地球資源環境学教室、日本地質学会ジオパーク推進委員会 (高須晃委員)、島根県地質学会、中国地質調査業協会島根支部、島根大学名誉教授 山内靖喜

問合せ先

■隠岐ジオパーク推進協議会事務局

〒685-8601 島根県隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24 番地 島根県隠岐支庁県民局内

TEL 08512-2-9636

■隠岐観光協会

〒685-0013 島根県隠岐郡隠岐の島町中町目貫四 54-3

TEL 08512-2-1577

■公式ウェブサイト

<http://www.oki-geopark.jp/>

隠岐ジオパークは平成21年10月に日本ジオパーク認定を受けたジオパークの先進地である。平成24年9月に世界ジオパーク認定に向けて申請を行うも、情報不足を理由に現在のところ認定は保留のままとなっているが、実情は、世界ジオパークがユネスコの正式プログラムとなることが現在ほぼ確定しており、これに伴い審査基準が厳格化されたことに伴う保留であり、平成25年9月には認定されることが確実視されている。

隠岐ジオパークを訪れて感じるのは、隠岐の大地に刻まれたその歴史ストーリーの雄大さと、その大地によって育まれた独自の生態系のユニークさ、そしてこの自然を護り、活用してきた人々の営みによって形作られた文化の豊かさである。

そこから読み取れるものは、ジオパークを安易な観光資源として位置づけるのではなく、隠岐の島の形成過程の独自性、ユニークな自然体系、人々によって形作られた文化等、ジオの恵みに対する崇敬の念である。

伊豆半島ジオパークとの比較で言えば、伊豆半島ジオパーク構想が出てきたことについては、若干の唐突感が否めないが、隠岐ジオパークの場合には、既に平成16年頃より、「風待ち海道エコツーリズム大学」等の「風待ち海道倶楽部」を中心とした活動が行われており、ジオパークのベースとなる活動が以前からあった点で大きく異なると言える。

「風待ち海道倶楽部」の取り組みは次のようなものである。

<活動の柱>

「エコツーリズム」による地域振興・観光振興を行う。

1. 地域資源を保全し、持続可能な活動を推進する。
2. 地域資源の貴重性を理解（情報発信）することによって、資源の保護・再生を行う。

<3つの方針>

1. 新たな観光形態～エコツアー、体験型観光～
2. 経済還元の仕組みづくり～有償ガイド～
3. 地元ブランドづくり～隠岐の価値を認知～

<風待ち海道エコツーリズム大学>

■自然環境学科 海洋コース

海洋生物、対馬暖流、日本海の特徴などについて学習

■自然環境学科 陸上コース

植物、動物、昆虫、地質などについての学習

■歴史学科コース

黒曜石～北前船までの隠岐の歴史、神社・仏閣、祭りについての学習

このように、隠岐ジオパークの取り組みは9年越しの活動なのであり、観光振興が一つの目的となっているとは言え、そのベースにあるのは、地域の教育力の強化であると言える。



② CAS システム活用の取り組み」について

